

一、万人施宿塔由来

「気仙郡誌」——明治四十三年十月十三日発行

岩手県教育会 気仙郡部会編集

慈善家新沼三太夫 米崎村糠塚の豪農為人寡慾、頗る慈善を好む、天明中大に嘆し、闔村飢餓に陥るもの多し、三太夫大に之を憂い、倉禀を發きて賑恤す、そうりん あは しんじゆつ 為めに死を免るゝ者四十九戸、又他郷の者と雖も来り請ふあれば喜ひて引接し、飽かしむるに食を以てし、假すに宿を以てす、其の病める者に對しては、醫藥を施して救拯し、きゆうじやう 其の去るに際しては數日の食と草鞋とを以てす、斯の如くすること彌年一萬有余人を救ふ、妻亦よく夫を助け、其の救恤に關してはきゆうじゆつ 僕婢に委せず、ぼくひ まか 親ら連接給食に従ひ、終日座することなかりしと云ふ、今や昔日の富にあらさるも、「万人施宿塔」なる大碑、濱田橋畔高田町の門戸にあり、旅人をして佇立三太夫の博愛を偲ばしむ。ちやうりやう

二、碑文内容

「万人施宿塔」

○年号 天保七年（一八三六）

○當邸志主 新沼三太夫孝繼

世話人 忠四郎

小友村 同 福三郎

同 義藏

當村 石工 平吉 安平